

## 令和5年度 第1回 道明寺南小学校 学校運営協議会

参加者：(敬称略) 委員：藤本・南坊城・丸山・中島・中村・高橋(所長)・後藤・高橋(教頭)

欠席 森・石川

事務局：学校教育課(田中)・生涯学習課(木村・中川・比嘉・阪上)

司会(副会長)

### 1. はじめに

#### (1) 事務局より

資料確認、各委員及び事務局の自己紹介

#### (2) 会長より

欠席のため割愛

#### (3) 校長より

新年度となり、301名の児童が元気に登校してくれた。人なつっこい子どもたちに囲まれてよい刺激を毎日もらっている。阪上前校長が大切にされていた、こどもを中心においた組織づくりに尽力したい。

### 2. 協議

#### (1) 前年度第3回議事録の確認 (今回協議内容の共有)

出席者全員一致で承認

#### (2) 令和5年度学校運営方針について

出席者全員一致で承認

後藤：基本的には阪上前校長が作成された内容を引き継いだら、教育方針と経営目標の2点を追記した。教育方針では、“つながる”をキーワードに、経営目標ではコロナが終息しつつあるので、笑顔や元気のある学校をめざしていきたい。

藤本：個人的な希望として前回の会議でもお伝えしたが、学校運営方針はこの内容でいいと思うが、「具体的に何をするのか」ということを挙げていただき、一年後に評価を数値化してほしい。そうすることで、成果とともに本校の課題が浮き上がってくるので、次の取組みにいかせると思う。

後藤：数値化できること、できないことがあることをご了承いただきたい。また、今年度初めて道南小に就任するため、とりあえず1年間様子をみさせてもらう。

#### (3) 評価項目について

高橋(教頭)：全国学力テストで道南小は点数が高いが、教職員としては、わからないときに質問できる児童は少ないと捉えている。子どもの「わからない」を解決したいと考えており、3年間で改善傾向にあるが、今後の課題でもある。生活面では遊び場が少なく、動画の視聴率が全国でも大阪は高く、中でも藤井寺市、道南小は割合が大きい。学習に対するアンケートは学期ごとにとっており、数値化されたデータをコミュニティ・スクールでも連動させながら行いたい。また、アンケートの内容も一緒に検討いただき、改良していきたい。

藤本：点数が低いものを学校運営方針に反映いただければより具体的な取組みになる。

丸山：数値をとることはもちろん大切なことだが、数値に惑わされないように気をつけたいといけない。3つのことがポイントになると思う。「本当に子どもたちの声が聞こえているのか」「子どもがいきいきできる機会を提供できたのか」「子どもが輝いていたのか」を常に気にかけていくことが大切だと思う。また、今年度は「元気広場」の活動中心にまずは取組みを進めていくということなので、1年間かけて三者が「子どもを見る」ということをしていくのはどうか。元気広場の参加人数やアンケート未提出の数も評価基準の参考になるのではないか。

後藤：それぞれの気持ちを一致させ、進むべき道を共有していきたい。

#### (4) 今後の具体的な取組みについて

##### ・子ども発信の取組み(掲示板を活用した取組みも視野)について

中島：コルクボードを3つ購入した。1つはコミュニティ・スクール用で、子どもたちに顔を覚えてもらうため皆さんの写真を撮らせてもらいたい。2つ目は元気広場の実施案内、3つ目は子どもたちの生の声を知るために付箋を用意し、やりたいことなどを自由に書けるスペースを作る予定。

##### ・放課後子ども教室(げんき広場)について

中島：令和5年度の日程案を学校と調整し作成した。学年に応じた対応や企業プログラムの活用も検討している。近日中に大阪緑涼高等学校へ別添資料の「協力依頼」を持参する予定である。授業参観だけでなく、予定が合うのであれば是非委員の皆さんも元気広場に参加し、子どもたちの様子を見に来てほしい。第1回目は6月8日(木)15:45~16:45で実施予定。

##### ・道南っ子まつりについて

中島：令和4年度第3回学校運営協議会で配布された児童対象のアンケートにて、道南っ子まつりを復活させてほしいと回答が複数見受けられた。それを受け、コミュニティ・スクールでも豚汁復活のお手伝いをしていただけませんか？予算は、道南小50周年事業から賄えるとのことだが、コミュニティ・スクールとして関わっていくことに対してどう思われるか？

高橋(教頭)：道南っ子まつりは、地域と連携し学校が教育活動の一環としてプロデュースしているため、教職員の負担が大きく、道南っ子を知らない教員がほとんどである。子どもが何を希望しているのかを知るのが先で、形だけで決めるのではなく、今後、元の道南っ子まつりに戻していくことは人員確保などの観点から難しいと思っている。

中村：自主性を引き出すために道南っ子まつりで何をやりたいかアンケートを取るのか？

藤本：道南っ子まつりを経験していない児童がいるため、何をやりたいかアンケートを取ってもイメージができない。そのため、まずは一度道南っ子まつりを実施し、子どもの感想を聞いた上で今後どうしていくかを協議しなければならないのではないかと。

丸山：50周年事業を、より子どもに寄り添った周年事業にするため、式典のみを行うのではなく、道南っ子まつりと合わせて実施しても良いか？ということを確認するかしないか？学校はどう思われるか？

高橋(教頭)：道南っ子まつりを実施することは決定しているが、内容は今後協議していく。しかし、過去にやってきたことをそのまま戻すのではなく、新しい道南っ子まつりを作っていく

たい。

中島:お手伝いをするという回答を50周年事業へ報告させていただく。道南っ子まつりは、11月25日(土)実施予定である。

・教育活動における人材支援について

中島:学校からの要望で、50周年事業予算でミシンを購入した。今後家庭科の授業などでミシンを使い始める時など、地域の方に家庭科の支援を依頼したい。

・その他(花壇の整備について)

中島:3月下旬に卒業生(6年生)の力を借りて、花壇の整備を実施した。今後、普段の水やりなどは在校生の力でお願いしたい。

高橋(教頭):そういう方向で動いていきたい。

(5) 令和5年度の予定(年間6回の予定)

- |               |         |
|---------------|---------|
| ・第1回 4月18日(火) | 第4回 11月 |
| ・第2回 6月13日(火) | 第5回 1月  |
| ・第3回 9月       | 第6回 3月  |

藤本:年間6回は少ないと思う。適宜、集まることもできると思うので、まずは最低限この6回はこの認識でいいのではないかな。

3. おわりに・事務連絡

・次回の確認 令和5年6月13日(火) 18:00~